



東北支部

1. 会員状況

個人会員約50名、賛助会員2社で、ここ数年ほとんど横這い状態ではあるが、わずかずつながら新旧の交替があり、これら新会員の斬新なセンスによる活躍が期待される。

来年は6年ぶりに仙台での秋季大会開催が予定されているので、これを機会に強力な会員勧誘をはからねばと考えている。

2. 47年度活動状況

総会、役員会各1回、幹事会3回、講演会1回、OR研究会3回を実施した。とくに新しい試みとして行なったOR研究会は、着実な活動の一環として大きな成果をあげたものと思われる。内容は次のとおりである。

◎講演会 47年5月20日(土)

“回帰分析における観測誤差の影響”

竹内 清氏(東北大学教授)

◎OR研究会

第1回 47年8月21日(月)

“設備計画の数学的モデル化”

木村正行氏(東北大学教授)

第2回 47年10月2日(月)

“交通事故の統計的解析”

安藤二郎氏(東北工業大学)

第3回 47年11月28日(火)

“産業連関分析の利用例”

石川芳二郎氏(東北電力)

3. 48年度活動予定

おもなものとして、講演会3回程度、OR研究会4回程度、また初の試みとして、中部支部にならない、会員の親睦行事の一つとして、工場などの見学会を1~2回実施する予定である。

講演会については、すでに2回開催したが、その

内容は以下のとおりである。

第1回講演会 48年4月21日(土)

“石油精製工業におけるORの利用について”

高井英造氏(東北石油)

(要旨) 業界におけるORに関する組織・体制の推移と現状、経営におけるORの役割、LPシミュレーション、PERT、統計解析などおもな活用手法の事例紹介など。

第2回講演会(本部第28回月例講演会)

48年6月30日(土)

“モデルとデータと計算機”

森口繁一氏(東京大学教授)

(要旨) ORの特長・効用、システムの考え方の意味、モデル人間とデータ人間の意義・関連、マルコフ模型、LP、探索などORの各種手法等についてオーバー・ヘッド・プロジェクターを用いての豊富な事例紹介など。

最後にIFORS、TIMSの日本開催についてのPR、講演に対する質疑があり、約100名におよぶ聴衆を魅了し、2時間にわたる講演を終了した。

なお、講演終了後、森口先生を囲み支部役員多数出席しての懇談会を催した。席上、先生より東大紛争時の貴重な体験や“今だからいおう”ばりのエピソードなど数々の興味深いお話があり、一同感銘したしだいである。

4. 支部規約変更

本部よりのひな型に基づき、本年4月の総会をもって支部規約を変更し、運営・活動推進のいっそうの充実を期すこととした。

なお、第2代支部長として2年間ご指導いただいた東北電力常務取締役・浅田秀雄氏は、2年間の任期を完了され、4月の総会をもって退任された。後任として東北電力取締役・松田 彰氏を選出した。